

平成18年度 中間評価調書

機 関 名 アイヌ民族文化研究センター

研究責任者 研究課長 古原 敏弘

研究担当者 研究職員 小川 正人

課題番号	ア文研一般1807		研究課題名 「山田秀三文庫」の整備と分析調査					
課題担当者	6 人							
共同研究機関 (協力機関)			研究区分	研究	試験	調査	分析	各種施策等との関連性
							(第3次北海道長期総合計画) 大項目: だれもが安心して暮らせる住みよい社会を形成する 中項目: アイヌの人たちの民族としての誇りが尊重され地位の向上が図られる社会の実現 小項目: アイヌ文化の保存振興とアイヌの人たちに対する理解の促進	
研究期間及び 所要見込額(千円)	14年度 ~ 22年度	前年度以前 (1,149)	当年度 (485)	翌年度以降 (3,729)	全体所要額 (一財 5,368)			
研究の概要	研究背景 ・研究センターが所蔵する「山田秀三文庫」は、アイヌ語地名研究の第一人者である故・山田秀三氏が研究に用いた資料のほぼ全体を網羅する貴重な資料である。その中には、北海道・東北地方のアイヌ語地名等に関する膨大な関係資料が含まれている。研究センターでは順次その公開準備を進めているが、これらを一般の利用により適したかたちで提供し、アイヌ語地名の学習・研究に資するためには、個々の資料の背景や相互の関連を明らかにし、詳細な目次や検索方法の充実等を図る必要がある。 研究目的 ・山田秀三文庫の音声・映像資料、文書資料、写真資料について、背景となる資料の調査収集(調査地点・調査文献の確認と収集、関係者からの聞き取り調査)を行うとともに、相互の関連を明らかにする等の分析調査研究を進め、山田秀三文庫をこれからのアイヌ語地名の学習・調査研究に使いやすいかたちで提供できるような情報を整備し、索引等を作成する。 研究内容 ・資料内容に関する調査: 写真資料や調査記録文書等について、その場所、年月日、被写体となっている景観や人物を明らかにする。 ・資料の関連性の確認: 調査記録メモ、写真、地図、その他の資料について、内容点検や関係者への聞き取りを通じて相互の関連性を明らかにする。 ・調査収集した情報の整備: 上記の作業を通じて収集した情報を整理し、資料の解説や索引を作成し、一般の利用に適したかたちで提供する。(資料集の刊行、内容目次の作成等) 研究計画の適切性 ・年次毎の研究計画の概要 平成14~15年度: 資料内容の目録化(全体の予備的作業としての目録作成) 平成16~20年度: 地域・テーマごとに資料内容の分析調査(調査地等の確認、著作等との関連調査等) 平成21~22年度: 分析調査結果の関連付けととりまとめ(データベース化等)としている。 ・資料の点数が膨大であり調査地域が道内外の各地に及ぶため、予備作業を踏まえて段階的に本調査を進める計画内容は適切であると判断する。						直近の研究課題評価結果 平成15年度 事前評価 【自己評価】 (A)・B・C 【総合評価】 (A)・B・C	
	研究の進捗状況	研究計画に照らした進捗状況・目標達成度など(進捗度・目標達成度【(a)・b・c】) ・現在のところ計画どおり進捗している。16年度より実際の資料内容に関する調査の段階に入り、聞き取り調査及び関係資料の収集等が中心となるため、関係者及び道内外の市町村教育委員会等との連絡を密にして進めているところである。 ・当初の目標を達成できる見通しである。また、平成16年度より、調査成果の提供及び中間報告とともにアイヌ語地名を通じたアイヌ文化の理解促進を目的として、本研究課題の成果を踏まえた「山田秀三文庫」の資料展を道内の主要地域で開催しており、この展示が関係者等から強く関心を持たれている。 年次別目標とそれに対応する実績 ・H15年度まで: 資料目録の作成(図書、音声・映像、文書、写真) 目録全5冊を公開。800部印刷し関係機関に配布。 ・H16年度~ : 資料の公開利用の開始 資料内容等の補足・追跡調査(石狩、空知、上川、釧路、十勝地方など) 関係者・関係資料の調査、資料内容の関連づけのためのデータ整理を開始 中間報告及び成果提供の一環として山田秀三文庫の資料展を開催(平成16年度: 札幌市、17年度: 旭川市)						
今後への見通し	研究開始後の事情変更の有無 ・特に見られないが、近年、アイヌ語地名に対する関心の高まりや地域の歴史・文化の学習教材として学校教育や生涯学習において着目されるようになってきていることから、この研究課題によりアイヌ語地名に関する貴重な学術資料が利用しやすいかたちで提供されるようになることの意義はますます大きくなっている。(上記の資料展も、こうした関心の高まりを踏まえたものである) 研究計画の見直しの必要性 (期間の妥当性【(a)・b・c】 経費の妥当性【(a)・b・c】) ・特になし 期待される成果とその実現可能性、成果の有益性・活用可能性 (実現の可能性【(a)・b・c】 活用の可能性【(a)・b・c】) ・アイヌ語地名に関する一級の資料群である「山田秀三文庫」について、使いやすく調べやすい情報を提供することにより、アイヌ語地名に関する学習・教育・調査活動等に大きく貢献することになると考える。							
【自己評価】	【説 明】 アイヌ語地名に関する貴重な資料である「山田秀三文庫」の内容を明らかにする本課題は、寄贈を受けた当センターの責務であり、資料内容の調査や関連性の確認、目録作成は計画通り進んでいる。また、その結果に基づいた資料展も好評を博しており、よりよい情報を提供するためにも引き続き取り組む必要がある。							
【総合評価】	【意 見】 アイヌ語地名に関する貴重な資料である「山田秀三文庫」の内容の普及に向けて、資料内容の分析調査は当初の計画どおりに取り組みが進められており、今後成果が確実に見込まれる。							

(A)当初(事前評価時点)の計画どおり、または計画以上に取り組みが進められており、今後成果が確実に見込まれる

(B)当初(事前評価時点)の計画に比べ、やや遅れが見られるが、概ね目標は達成しており、今後効率化などの努力により一定の研究成果が見込まれる

(C)今後の見通し等に問題があり、中止を含めた抜本的な見直しが必要である

(a)極めて高い、適切である (b)高い、概ね適切である (c)低い、改善の余地がある